

■立川(和四郎)富昌 大工。幕府作事方の地方分流・諏訪立川流の2代目で、大工仕事だけでなく彫刻面でも大活躍した。

たてかわとみまさ
天明大飢饉始1782＝

田沼意次失脚1786＝ 4歳：

初の横綱・・・1789＝ 7歳：
混浴禁止・・・1791＝ 9歳：

松平定信引退1793＝11歳：

バートン来航・ 1796＝14歳：

伊能測量始・1800＝18歳：
宣長没・・・1801＝19歳：
一九膝栗毛始1802＝20歳：

いづノ報復・ 1806＝24歳：
しッ船狼藉・ 1807＝25歳：
間宮海峡発見1808＝26歳：
間宮海峡発見1809＝27歳：
・・・・・・・1810＝28歳：

ゴロツン拿捕 1811＝29歳：
高田屋拿捕・1812＝30歳：
浮世床・・・1813＝31歳：
・・・・・・・1815＝33歳：

杉田玄白没・1817＝35歳：
水野忠成老中1818＝36歳：
群書類従完結1819＝37歳：
・・・・・・・1820＝38歳：
伊能図完成・1821＝39歳：

シボム鳴滝塾1824＝42歳：
異国船打払令1825＝43歳：

日本外史・・・1827＝45歳：

シボム追放・1829＝47歳：
富嶽流行・・・1830＝48歳：
富嶽三十六景1831＝49歳：

滑稽+人情本 1835＝53歳：
・・・・・・・1836＝54歳：
大塩平八郎乱1837＝55歳：

勧進帳初演・1840＝58歳：
天保改革始・1841＝59歳：
天保改革弾圧1842＝60歳：

天保改革終・1844＝62歳：
阿部正弘首座1845＝63歳：
孝明天皇・・・1846＝64歳：
・・・・・・・1847＝65歳：
・・・・・・・1848＝66歳：

国定忠治磔・1850＝68歳：
尊徳報徳論・1851＝69歳：

ペリー来航・1853＝71歳：
開国開港・・・1854＝72歳：
安政大地震・1855＝73歳：
松下村塾・・・1856＝74歳：

信濃国諏訪で、初代(和四郎)富棟の長男に生まれる。

先祖は、甲斐国巨摩郡の、武田家に仕えた塚田氏の一族で、武田家滅亡後、信濃国諏訪で桶職になっていたが、絵画に秀でていた父は、幕府御用達の(大隅流)立川小兵衛富房に弟子入りし、高く評価されて、富棟の名を貰った上、立川姓を名乗ることまで許され、職養子になることを懇請されるも辞退して、諏訪に戻って、建築業を始める。

次第に、大隅流の正統を伝える伊藤儀左衛門と競合したため、再度、江戸に出て、両国の彫物大工小沢五衛門に弟子入り、帰郷後、小沢屋和四郎を称して、諏訪神社下社秋宮など建設するうち、名匠の誉高くなり、代表作「善光寺勸進本尊・表御門」を建築し、非公式ながら“内匠”を受領するまでになった。

幼時は亀松と称し、

父富棟に大工仕事に必要な算術を学び、

早くも98頁の「手習帳」を作成、建造物の部位・部材などを記し、難字には振仮名をしているだけでなく、

絵画を狩野派から葛飾北斎まで流派を超えて学び、のちには、作陶、茶道、謡曲にも優れて、松平定信に認められるほど、芸術的才能を発揮して、
「無極寺本堂」の棟札には和藏と記されて、父の助手を務め始めたことが知られ、
「長岡神社本殿」の棟札には、亀松富興と記され、人物彫刻で父を大いに助けて期待されるようになり、
*父が38年を要して完成させた大建築の駿河「浅間社」に、傑作「力神」を彫って、父に次いで“内匠”号を受領したらしい。

神社の記録には和藏富昌の名が現れる。

父が死去して独立、

最初の仕事「北小河内八幡社」では棟札に和藏富興と記している。「光前寺三重塔」、

父が請け負い、*尾張に進出する契機になった「内々(うつつ)神社本殿」の棟札で、正式に和四郎を襲名、諏訪立川流一門の総帥になった。

この頃の駿河国「六所神社」の人物彫刻にも関与したことが伺える(以下、信濃国以外は国名を特記)。

大門稻荷社本殿、

「深川神社本殿」、

「諏訪社本殿」、

「伊夜彦社本殿」、

この間、そして以後も、仕事に応じて、その都度異なる名を用いているが、

「龍翔寺六角堂」。***幕府より、信濃国の外では、公式に“内匠”を名乗ることを許され、**

「田村市場観音堂及び釈迦堂」、

尾張「豊川稻荷社客殿」以後、日本全体において重要な建築物にも従事するようになって、

「壺井八幡社本殿」、

尾張「豊川稻荷社奥院拝殿」、

尾張の「亀崎中切組力神山車」「諏訪社本殿」、

尾張「亀崎浦山車」、

尾張「豊川稻荷社本殿厨子」

駿河「秋葉社楼門」、

「北久保古御堂」、

尾張「亀崎田中組神楽山車」、

近江国日野「曳山山車」、

近江国日野清水「山車」、

「茂多井諏訪社」、

「熊野神社」、

「小口薬師堂」「東昌寺鐘楼」、

美濃「西蓮寺」、

「矢彦社楽殿」、

駿河「三熊野社本殿」、

甲斐「諏訪社本殿」、

美濃「岐阜本町山車」、

「興正寺山門」、

美濃「竹鼻神社」、

甲斐「海岸寺観音堂」、

尾張「亀崎西組花王山車」、

「福島八剣社本殿」「小和田八剣社本殿」、

尾張「豊川稻荷社総門」、

「矢島天白社」「白鳥社神馬彫刻」。***子に家督を譲り、富重が3代和四郎を襲名披露、以後の作品は公式には富重のものになり、主に彫刻に関わる形で、**

「武水別社本殿」「水上金毘羅社」「須々岐水神社本殿」、

駿河「普門寺弁財天堂」、

上総「千葉社」、

美濃養老の「山車」、

江戸「小石川白山社」、

尾張亀崎八幡社の「山車」)、

「十念寺秋葉社」、

「安良居神社本殿」、

飛騨高山五台山の「山車」、

「京都御所御門彫刻」と、

一流の集まる地でも仕事をし続けたが、

塩尻で「永福寺旭堂」建設中、伐採しようとした大樑が倒れ、その下敷きになって、没した。

安曇野の立川豊八は諏訪立川流を受け継いだ著名な弟子のひとりで、三代富重の後も、明治期には(和四郎)富淳、富種と続き、その子の義太郎は西洋建築も学んで、高村光雲に注目され、一家から、富広(湖岳)、松代(湘蘭)、富尚と、彫刻家を輩出、義太郎の子義明は日展の彫刻部門のリーダーになるなど、その伝統は連綿と続いている。

内藤昌「近世大工の美学」、(飯田市美術博物館)水野耕嗣「信州諏訪大工立川富昌の名乗り変遷と彼の末期について」、